



交流会

3月の交流会では、卒業生のお祝いと子どもたちの日本語力の問題などについて話し合いを行いました。保護者からたくさんの意見が集まりました。

【保護者より】

- 子どもたちには3つの選択があると思う。ブラジルの大学への進学、日本の大学への進学、あとはアメリカ留学の道もあると思う。どの選択肢にしてもたくさん勉強しないとイケない。ブラジルの学校へ進学を希望した場合も、日本で身に付けたポルトガル語では、ブラジルの大学へ入るには難しいのが現状である。
- 最近来日したばかりなので、自分の娘はポルトガル語で読み書きができるが、今後ポルトガル語を忘れてしまわないように、家庭でポルトガル語の学習を継続して行っている。叔母が教師なので教材をブラジルから送ってもらい、学校の宿題が終わった後にポルトガル語の学習も行なっている。
- 「ゆめの木教室」に通うようになって学力も日本語力も伸びてとてもうれしく思っている。学校の懇談会でも、担任の先生より頑張っていることを褒められた。
- 小学校で外国人児童の割合が多いことに不安を感じる。外国人児童生徒の教育が良く分かっている教員でないと適切な指導は難しいと思う。



子ども達の国

2019年5月発行 Vol.40



保見地域の在留外国人比率と日本語習得について

みなさまの長きにわたるご支援とご協力により、設立から20年目の節目の年を迎えることができました。心から感謝申し上げます。

保見地域の現状について、少しお伝えしたいと思います。「ゆめの木教室」を始めた頃、保見ヶ丘の在留外国人比率はおおよそ30%でした。その後、日本人は減り続け、外国人はリーマンショック後、一時的に減少しましたが、現在も増え続けています。

在留外国人の増加に伴い、「ゆめの木教室」に一番多く通室している西保見小学校の外国人児童比率は徐々に増加し、現在は約70%が外国人児童です。教室の授業以外で日本語を聴く機会は本当に限られています。現在の保見団地は子どもたちが日本語を習得できる言語環境にはありません。在留資格は永住者・定住者であり、将来、日本社会で活躍できる子どもたちが、日本語を習得できない環境の中で生活しています。日本語における教科学習内容の習得、さらに進学就職にも多大な影響が出ています。

この問題について、豊田市多文化共生推進協議会で話し合いが始まります。子どもたちの将来のために、大人たちがどのような環境を整えなければならないか、関わる人々が向き合い、対話することが子どもたちの未来への一歩になると信じています。

文責 井村美穂

- 放課後学習支援事業「ゆめの木教室」
小中学生：月曜日～金曜日 午後2時～6時
- 青少年の自立支援事業「そら」
木曜日：午後6時30分～8時30分

- 青少年の健全育成のための事業
問題を抱えた子どもとその家族に対し
随時相談・援助を行なう
- 交流会 年3回開催



ゆめの木教室

「ゆめの木教室」ではスタッフ間で子どもの様子を共有するため、毎日メールで報告を行なっています。
また小学校、中学校とも情報交換を行い、子どもの学習の様子を共有しています。

- 1年：大きな声で音読をすることができました。楽しく学習に取り組むことができます。
- 1年：反対言葉を少しずつ覚えていきます。
- 3年：頑張って宿題に取り組んでいましたが、宿題の量が多くて漢字練習が途中になってしまいました。
- 3年：助詞の「が」と「を」の使い方をなんとなくですが理解できています。
- 3年：8個ずつ7列並んだ図を見ても、8×7の式が思い浮かびません。どういう時に掛け算を使うのがまだ分かっていないようです。
- 4年：音読をすると言葉の区切りがよくわかっていないことが分かります。
- 4年：さっさと終わらせたいため、小さなミスが目立ちます。
- 5年：体積の公式が定着していません。
- 5年：漢字を頑張って勉強しました。算数では小数点の移動にてこずっています。
- 6年：正多角形の理解が少し足りないようです。
- 6年：学校の漢字のテストが74点でした。ほぼ平均点です。やる気も出ています。



【ゆめの木漢字検定】

漢字の定着のために、毎月一回程度、西保見小の月例テスト(小2)を使い、漢字テストを実施しています。
昨年度までは「ゆめの木教室」独自の漢字テストを使っていましたが、あまりにも漢字の定着が悪いため、学校と同じテストを実施し確実に漢字を覚えられるよう指導しています。

【学校訪問】

隔月で西保見小学校と東保見小学校を訪問し、各小学校の児童の生活や学習の様子について、担当教諭と情報交換を実施しています。



【個別記録】

昨年度同様、各学年担当者が児童生徒の学習記録を書き留めています。4月には、新年度の担当者に記録を引き継ぎました。よりよい学習支援につながると思います。

そら



【「そら」の青少年の職業経験】

「そら」には、やりがいのある職業、自分の得意分野を生かした職業に就きたいと考えている青少年が、工場働きながら、チャンスをつかもうと頑張っています。Aくんはサッカーチームの通訳にチャレンジしましたが、専門用語が多く素早く正確に通訳をしなければいけない厳しい通訳の現実に大きなプレッシャーを感じ、また保見団地に戻ってきました。自分が頑張ったこと足りなかったことを見つめ直し、次の良い機会を得た時に生かしていきたいと言っていました。



「そら」では、青少年が子育ての悩みや子どもの学習方法の相談を共有したり、中学生が宿題や課題をがんばっています。



いつも元気いっぱいのI兄弟。「子どもの国」スタッフもたくさん元気をもらいました。



兄のAは現在サッカーチームの通訳、弟のBは母国でプロのゴールキーパーとして活躍しています！！

I兄弟が久しぶりに顔を見せに来てくれました。



みんないつも真剣に勉強しています。

